

令和元年度購入文化財一覧

【九州国立博物館】（計22件）

<絵画>（6件）

1 名称	釈迦三尊図（しゃかさんぞんず）	品 質	絹本着色
作 者 等	伝顔輝筆	員 数	3幅
時 代	中国 元時代・13-14世紀	寸 法 等	本紙：各 縦135.5 横77.2 表装：各 縦233.0 横99.1 軸長107.4
作品概要	岩上の草座に坐す釈迦牟尼、蹲る青い獅子に乗る文殊菩薩、同じく白象に座す普賢菩薩を3幅に描く。長髪を垂らし体毛を蓄える尊容は特異で、原色の濃彩と肉身の隈取りにも特徴があり、全体的に粗野で奇異な印象を与える。一方で、各尊の朱衣を金泥文様で丁寧に埋め尽くし、文殊の梵篋に『円覚経』の経文を忠実に筆写するなど、本図には大胆なデフォルメと緻密な細部が意識的に並存する。図像学的にみれば、本図のような草座の釈迦は近年、夏安吾本尊の可能性が指摘されており、仏教文化史上、極めて重要である。中国・元時代を代表する仏教絵画として著名で、日本における中国美術の受容史を理解する上でも意義の大きい作品である。京都・鹿王院旧蔵。		
購入金額	150,000,000 円		



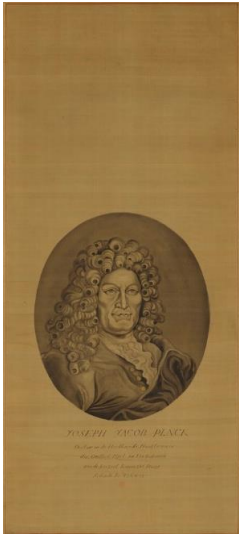
2 名称	天神飛梅図（てんじんとびうめず）	品 質	紙本着色
作 者 等	狩野山雪筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦102.5 横29.1 表具：縦191.8 横40.8 軸長46.2
作品概要	菅原道真は、愛し育てた紅梅に「東風吹かば匂い起こせよ梅の花、主なしとて春な忘れそ」と詠み、別れを惜しみつつ京を離れる。悲しむ梅は、後を追いたい気持ちが極まって飛び発ち、一夜にして主人の住む大宰府に降り立った。この飛梅伝説を視覚化したユニークな作品。絶妙の位置に飛梅が描かれる。強い意志を秘めた表情、切れ長でつりあがった眼は「怒り天神」の伝統を引きつつ、山雪の人物画の特徴をしめす。いきいきとした精悍な表情は秀逸。筆者山雪は、江戸初期、京都の狩野派の優れた絵師で、個性的な画風から「奇想の系譜」に位置づけられる。その数少ない日本画題作品としても貴重であり、山雪の人物画の魅力を伝える傑作である。		
購入金額	3,240,000 円		



3 名称	猛虎図（もうこず）	品 質	絹本着色
作 者 等	土方稲嶺筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・享和3年(1803)	寸 法 等	本紙：縦181.0 横98.3 表具：縦248.0 横116.6 軸長：125.2
作品概要	こちらに歩み寄る虎一頭、松樹に憩う二羽の鵲（かささぎ）。中国・朝鮮半島でも描かれた「鵲虎図(じゃっこず)」で、鵲は吉兆のしるしとされる。すみずみにいたる圧倒的な毛描きによって、猛虎は迫真的に表現されている。場所によって毛足の長さを変化させ、所々に胡粉を交えキラリと光る硬い毛を表わすなど質感描写が見事。享保16年（1731）、長崎に来航した中国人画家、沈南蘋の新しい写生画風「南蘋流」は、以降の日本絵画に画期的な影響を及ぼす。その南蘋流をもとに自らの画風を確立した土方稲嶺（1741～1801）は、近年ことに注目を集めている。その稲嶺が63歳時に描いた新出の大作であり、南蘋画風を消化し自らの画に高めた傑作である。		
購入金額	15,000,000 円		



4 名称	ブレンク像（ぷれんくぞう）	品 質	絹本墨画金泥
作 者 等	石川大浪筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙：縦128.8 横55.5 表具：縦190.0 横66.8 軸長72.2
作品概要	オーストリアの外科医で、とくに西洋眼科学の権威として知られるブレンク（1735～1807）の肖像画。画の下1行目の大字が像主名で「JOSEPH JACOB PLNCK」。その下に4行にわたりオランダ語で像主の説明がなされる。一番下の朱印は、石川大浪「iSiKAWA」のモノグラム。筆者の石川大浪（1765～1817）は、幕臣、旗本で、杉田玄白、前野良沢、大槻玄沢ら蘭学者と交わり、洋風画で名をあらわす。重要文化財「杉田玄白像」（早稲田大学図書館）の筆者としても知られる。近年見出された優品で、舶来された洋書の挿図をもとにしつつ、金のボタン以外は墨のみで陰影をほどこしながら皮膚や衣服の起伏を質感ゆたかに描き、迫真的な表現を実現している。		
購入金額	6,000,000 円		



5 名称	桃花雉子図（とうかきじず）	品 質	紙本墨画
作 者 等	狩野山楽筆・龍岩瑞頭賛	員 数	1幅
時 代	安土桃山-江戸時代・17世紀初頭	寸 法 等	本紙：縦112.1 横50.0 表具：縦205.0 横63.5 軸長68.8
作品概要	季節は春。桃の花咲き誇り、岩下に蒲公英や堇が顔をみせ、草が優しい風に揺らぐ。奥には雪解けの水が勢いよく流れ、番の雉子が奇岩上に羽を休める。桃の枝は、先へ先へと伸び、生命力旺盛な動勢をしめす。画面下から上へS字状の動線を構図の軸とし、墨の濃淡の繊細な使い分けによって、優美な画面を生み出している。作者狩野山楽（1559-1635）は、狩野永徳の桃山文化様式を唯一引き継いだ巨匠。賛者の龍岩瑞頭（1560-1636）は、3度妙心寺住持となった禅僧で山楽と同時代人。時代の躍動的な空気を見事に表した優品である。かつて山楽の基準作として注目されていた作品だが、第二次世界大戦後、所在不明となり、近年、再発見された。		
購入金額	40,000,000 円		



6 名称	牡丹図（ぼたんず）	品 質	絹本着色
作 者 等	小田野直武筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙：縦42.0 横57.5 表具：縦133.0 横68.0 軸長76.3
作品概要	紅白の牡丹を対角線上に配置。陰影による立体感、波打つ葉の柔らかな質感など即物描写、匂うような花卉描写は見事で、日本の画材で油絵のような表現を実現している。筆者小田野直武(1749-80)は秋田藩士で、藩の招いた平賀源内(1728-79)から洋画を習う。江戸では杉田玄白(1733-1817)ら蘭学者とも交流し、『解体新書』の挿絵を担当。蘭癖の藩主、佐竹曙山(1748-85)・義躬(1749-1800)らに洋画技法を教え、秋田蘭画の創始者となった。31歳で夭折。日本で最も早く西洋画法による迫真的な絵画を描いた意義はきわめて大きい。直武の洋風画制作は1773～80年のわずか7年。数少ないその現存作として、きわめて貴重な優品である。		
購入金額	35,000,000 円		



<書跡>（1件）

7 名称	富士画賛「富士の根の」（ふじがさん ふじのねの）	品 質	紙本墨画・墨書
作 者 等	烏丸光広筆・賛	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦33.9 横48.2 表具：縦120.8 横62.8 軸長67.2
作品概要	烏丸光広(1579-1638)による墨画と和歌賛。中央に富士山とその麓にたなびく雲・霞を淡墨で素早く描き、その左右に富士の自詠を一首書き付ける。料紙全体における富士山と文字の配置、変化する墨色が見事である。烏丸光広は、安土桃山時代から江戸時代前期の公卿、歌人であり、この時代の“三筆”本阿弥光悦(1558-1637)・近衛信尹(1565-1614)・松花堂昭乗(1584-1639)とならび称される能書でもある。その教養と豪放な性格で徳川家康や秀忠に厚遇され、朝廷と江戸幕府との調停役を務めたことから、たびたび東海道を行き来した。その際に富士山を実見しており、紀行文「東行記」（東京国立博物館所蔵、B-2749 ）をはじめ富士山を題とした画賛の作例も複数知られている。釈文「富士の根の／雪も霞も／たち消て／白きを後の／今朝の空哉 光広」		
購入金額	3,000,000 円		



<金工>（1件）

8 名称	龍頭金具（りゅうとうかなぐ）	品 質	鑑形鑄造
作 者 等	タイ	員 数	1本
時 代	タイ スコータイ時代・15世紀	寸 法 等	総高84.5 茎長18.2
作品概要	鉄製の心棒を軸とした鑑形鑄造による青銅製の装飾金具。青銅部分は弓なりに曲線を描く龍形の神獣ナーガをかたどったもので、東南アジアのタイにおいてはスコータイ時代、アユタヤ時代の作例として類品が確認されており、王室儀礼に用いられたものと考えられている。芯材に緩やかに湾曲させた鉄芯を用い青銅部が非常に薄づくりであることなど、当時の鑄造技術の高さを理解することができる一品である。		
購入金額	2,052,000 円		



＜漆工＞（1件）

9 名称	花鳥蒔絵螺鈿聖龕（かちょうまきえらでんせいがん）	品 質	木製漆塗
作 者 等		員 数	1基
時 代	安土桃山-江戸時代・16-17世紀	寸 法 等	高67.5 幅27.5 奥行13.5
作品概要	頭頂部に三角形の破風を設けた大型の聖龕である。観音開の扉表には土坡から伸びる桜、椿等に鳥を、蓋裏には菊、桔梗を描き、破風内には唐草を描く。破風の下と基台は連弁と唐草を表わす。また龕の正面にはアーチ状の開口を設けて、花瓶、連弁文、幾何学文等で縁取る。内部には頭光と星、唐草文を描く。 空間を埋め尽くすような文様構成や平蒔絵を基調に螺鈿や針描を交えた技法はいわゆる南蛮漆器に共通しているが、大型で複雑な構造や、内外面に施された入念な加飾からは特別な注文品であったことがうかがえる。絵画を収めた聖龕は、重文「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」（九州国立博物館所蔵）など国内外に伝存するものの、立体像を収めるこの種の聖龕は稀少で、まことに貴重である。		
購入金額	84,024,000 円		



＜染織＞（2件）

10 名称	カシミヤ・ショール 赤地ペイズリー棕櫚文様綴織縫い合わせ（かしみや・しょーる あかじぺいずりーしゅろもんよう つづれおりぬいあわせ）	品 質	毛、2/2綾組織綴織（一部双糸）
作 者 等	カシミール地方	員 数	1枚
時 代	19世紀	寸 法 等	縦145.0 横305.0
作品概要	カシミヤ山羊の毛で織られた長方形のショール。中心に黒い円形の裂をはぎ合わせ、枝葉を広げたアブラヤシ様の文様とペイズリー文様を配し、その周囲には蛇行する滑らかな曲線が表わされる。全体の織地は赤い基布を中心に緑色、水色、茶色地に大小さまざまな文様を綴織した裂地をはぎ合わせている。本品に表わされた蛇行する曲線や棕櫚文様などは、西洋人の好みがかがえ、ペイズリー文様はシク期（19世紀前半）のものに比べると胴部の膨らみが少ないことなどから、ドグラ期（19世紀後半）の制作と考えられる。		
購入金額	2,420,000 円		



11 名称	カシミヤ・ショール 赤縞地立木ペイズリー文様綴織縫い合わせ（かしみや・しょーる あかしまじたちきぺいずりーもんよう つづれおりぬいあわせ）	品 質	毛、2/2綾組織綴織（一部双糸）
作 者 等	カシミール地方	員 数	1枚
時 代	19世紀	寸 法 等	縦144.0 横330.0
作品概要	カシミヤ山羊の毛で織られた長方形のショール。横方向に8段の矩形を設け、区画内に幹をくねらせた立本文様、ペイズリー文様、蛇行した曲線、花唐草文様等が織り出されている。対角線上中心には白地に棘状の突起をもった団子繫ぎ状の文様を織り出す。本品のようにペイズリー文様が長く引き伸ばされて流線状となったりゼンマイ形のペイズリー文様や、中心に鉤爪状の輪郭を呈するねじれまがった形に配するものは、ドグラ期（19世紀後半）の作例に見られる。全体に綴織技術が精巧であり、それぞれの裂地のはぎ合わせ処理も繊細な1枚である。		
購入金額	2,750,000 円		



<考古>（8件）

12 名称	響銅王子形水瓶（きょうどうおうじがたすいびょう）	品 質	蓋付の王子形（卵形・橐形）水瓶
作 者 等	中国	員 数	1合
時 代	中国 唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高20.3 胴径8.0
作品概要	蓋付の王子形水瓶で、身の口に蓋が被さる。身は丸みを帯びた卵形の胴部に外反りの台脚、および細長い頸部がつく。台脚内面のやや下よりの部位には、平底がある。平底は別作りの円板を接合した「嵌め底」であると考えられる。底部外面には七重の同心円を刻む。中心から数えて5番目と6番目の同心円の間に「法静」の2文字を行書で刻す。底部内面では中心から少しはずれた箇所、柱状のパーツ「嵌め金」がわずかに突出する。蓋は中央が甲盛り状に隆起し、その頂部には宝珠形の鈕がある。蓋の内面は中央から分厚い板状の舌状部が突出し、そこにピンセット状金具を鉋で留める。ピンセット状金具は2本の細長い板金からなる。		
購入金額	36,288,000 円		



13 名称	大珠（たいしゅ）	品 質	翡翠製
作 者 等	千葉県成田市名古屋出土	員 数	1個
時 代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	長6.5 幅3.5 厚2.0
作品概要	縄文時代中期の東日本を中心に分布する翡翠製の大珠。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。短冊形で、穿孔は中央上寄りに総体片面から行なわれ、側面は定角式磨製石斧を思わせる平坦で面取りのある形状をなす。縄文時代中期～後期の日本列島では、大珠と呼ばれる細長い形態の緑色石材製垂飾が流行したが、本品はその一例である。		
購入金額	4,400,000 円		



14 名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品 質	土製
作 者 等		員 数	1口
時 代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	直径59.0 高59.5
作品概要	縄文時代中期の東関東地方を中心に分布する土器。大型で均整の取れた姿で、口縁部には棘を持つ渦巻文、胴部には縄文が施される。この時期の日本列島では新潟の火焰型土器をはじめとする過剰に装飾された土器が各地で大流行したが、本品はその一例である。		
購入金額	3,000,000 円		



15 名称	勾玉（まがたま）	品 質	翡翠製
作 者 等		員 数	1個
時 代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	長2.7 幅2.6 厚2.2
作品概要	複数条の刻みを持つD字形に近い歪な形態の勾玉。獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		
購入金額	3,256,000 円		



16 名称	勾玉（まがたま）	品 質	翡翠製
作 者 等	伝青森県南部出土	員 数	1個
時 代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	長3.0 幅1.8 厚0.7
作品概要	頭部に刻みを持つ整った形態の勾玉。定形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		
購入金額	2,420,000 円		



17 名称	石剣（せっけん）	品 質	粘板岩製
作 者 等	伝新潟県出土	員 数	2本
時 代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	1：長径3.1 短径2.4 長56.9 2：長径2.5 短径2.0 長27.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する石剣。1は完存、2は先端側3分の1程度が残る。剣状で、沈線と敲打で表現された区が特徴的である。全面に漆状の黒色物質が薄っすら付着している。縄文時代の石棒類は、その起源を先行する骨刀類に求める見解が多いものの、中国東北部やシベリアで出土する青銅製刀子・短剣に求める見解もあり、今後の研究が注目される。箱蓋表貼紙には「霹歴礎」、箱蓋裏には「越後蒲原郡古鷹ノ里／武埴姓都知多庫（朱文方印）「墳」」の墨書がある。		
購入金額	3,300,000 円		



18 名称	土偶（どぐう）	品 質	土製
作 者 等	伝青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員 数	1軀
時 代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	高17.8 幅13.4 厚6.3
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する亀ヶ岡文化の土偶。雪眼鏡（遮光器）を掛けたような眼部表現から、遮光器土偶と呼ばれる。本品は中空で、下半身は別個体の遮光器土偶のものが近時修理で接合されている。上半身はバランスが良く、精緻な文様と丁寧な黒色磨研により見事な造形美を見せる。亀ヶ岡文化では祭祀具や工芸技術が発達し、多様な形態を持つ精巧な作りの土器、土製品、石製品が多数製作された。本品はそうした亀ヶ岡文化の特徴をよく示す品である。それらの一部は九州にも伝わり、弥生文化の成立にも大きな影響を与えた。		
購入金額	11,000,000 円		



19 名称	土偶（どぐう）	品 質	土製
作 者 等		員 数	1軀
時 代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	高9.5 幅13.3 厚6.2
作品概要	縄文時代晩期の関東地方を中心に分布する土偶。顔面が木菟に似ることから、木菟土偶と呼ばれる。木菟土偶は中空で作られることが多く、本品のような中空のものは数が少ない。中空の木菟土偶は、同時期の東北地方を中心に分布する中空の遮光器土偶の影響を受けて成立したといわれており、両地域の交流を物語る品である。		
購入金額	4,180,000 円		

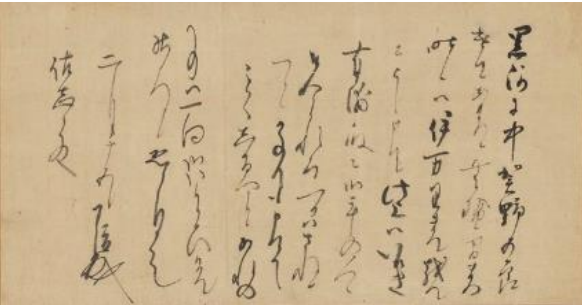


＜歴史資料＞（3件）

20 名称	オルテリウス『世界の舞台』（おるてりうす せかいのぶたい）	品 質	紙本銅版、手彩色
作 者 等	アブラハム・オルテリウス編	員 数	1冊
時 代	アントウェルペン・1579年刊	寸 法 等	縦42.3 横29.2 高6.3
作品概要	『世界の舞台』（Theatrum Orbis Terrarum）は、大航海時代の成果をもとに、アントウェルペン（現ベルギー）出身の地理学者・地図作者のアブラハム・オルテリウスが編集した世界最初の地図帳。本品は1579年のラテン語版で、93葉115種の地図が収録される。1579年版の特筆すべき点は3点あり、まず1点目は歴史地図3図とプトレマイオス『地理学』所載の地名リストを追加したことである。2点目はそれまでの版になかったオルテリウスの肖像画が掲載されたことである。3点目はこの版以降、プランタン印刷所で印刷・販売されたことである。1579年版の発行部数は不詳だが、100部ほどだったと推測される。近代的な世界地図帳（アトラス）の嚆矢であり、商人や航海者による世界地図の需要に応えたものでもある本品は、ヨーロッパとアジアとの邂逅を示す優品であると考えられる。		
購入金額	30,000,000 円		



21 名称	今川了俊自筆書状（いまがわりようしゅんじひつしよじょう）	品 質	紙本墨書
作 者 等	今川了俊筆	員 数	1幅
時 代	南北朝時代・永和2年(1376)	寸 法 等	本紙：縦27.6 横52.4 表装：縦118.0 横54.4 軸長59.7
作品概要	本品は永和2年(1376)2月19日付、松浦党一派である佐志氏に宛てた、今川貞世（了俊）の自筆書状。永和2年に松浦党一派であった波田武が南朝方に翻ったため、家臣の中賀野義員（生没年不詳）に兵をつけて肥前・黒川に派遣したが、軍勢が少なかったため、佐志氏に対して、松浦党の有浦氏に援軍をつけるように依頼したもの。本文書は了俊自筆の書状で、南北朝期の九州の様相を伝える史料として貴重である。中廻しの裂は京都国立博物館所蔵「前田家伝来名物裂」の「変り蜀江文様黄緞」と同類のものであり、格調高い。和歌や連歌を嗜み、紀行文などを著した文化人としての側面も持つ了俊の自筆書状として、本品は茶席の掛物として使用された可能性もある。		
購入金額	4,000,000 円		



22 名称	徳川家康黒印状（とくがわいえやすこくいんじょう）	品 質	紙本墨書
作 者 等		員 数	1幅
時 代	江戸時代・慶長10年(1605)–慶長19年(1614)	寸 法 等	本紙：縦20.8 横57.2 表装：縦102.5 横59.7 軸長64.6
作品概要	宗義智苑、徳川家康の黒印が捺された御内書。家康のもとに朝鮮人参と卓が届いたことへの返礼である。大正15年(1926)に宗伯爵家が朝鮮総督府朝鮮史編修会に無期限貸与したうちの徳川家康文書のうちの一つである。朝鮮史編修会が撮影したガラス乾板写真が韓国・国史編纂委員会に残っており、当時の装丁は江戸時代の装丁（卷子装）のままであったことが確認できる。本品は近代に流出してしまった宗家文書を構成する重要な一要素である。		
購入金額	1,650,000 円		

